

第 68 回全九州ろうあ者大会

第 47 回全九州手話通訳者研修会

メインテーマ

「手話は言語!! 手話が織りなす新たな時代」

今回の「はっけん」は、令和元年 9 月 7 日(土) ～ 8 日(日) に久留米市の久留米シティプラザで開かれた、上記大会のレポートを紹介します。



くるっば

久留米市イメージキャラクター

共 通 研 修

テーマ「手話言語法と情報・コミュニケーション法」

講師 久松三二 氏

今回の共通研修のテーマは「手話言語法と情報コミュニケーション法」全日本ろうあ連盟事務局長久松三二氏の講演でした。久松さんは上京して初めて『手話』という言葉を知ったそうです。それまで育った秋田では『手真似』と言われていた。それを聞くだけでもいかに偏見があったか分かります。

以前は医学モデルという考え方で、障害のない人中心の単一の社会・言語・文化・生活。障がいのある人は隔離・排除される存在であるという優生思想であった。2014年障害者権利条約が日本でも締結され、社会モデルの考え方に変わる。共生社会、多様な価値・文化そして言語を認める。障がいのあるない関係なく共に暮らせる地域社会を目指す。

人工内耳手術を否定はしない。しかし、聞こえないこと＝障害＝病気である、だから治療の対象という考え方は、手話言語否定、ろう教育否定、ろうアイデンティティ否定につながる。それが問題である。



手話は言語であると認めた上で、コミュニケーション手段の選択権、情報の受け取り、発信機会の保障を議論することが共生社会を創ることになると熱く語っていました。

手話を使うことが当たり前
前の社会に!!

大分県 手話サークル城山 柳井紀子

聴覚障害者問題に関わる研修分科会

第1分科会(手話言語)

テーマ 「手話・手話言語とアクセシビリティ」

講師 久松三二 氏

第1分科会に参加しました。はじめは活動状況報告で中村穂さんが最初に自分の生い立ちを話されました。

家が山奥にあり、子供の時に高熱が出て母親におぶられて2時間ぐらいかけて病院に行きました。

しかし、熱を下げるには注射をして熱を下げるか、死ぬかを母親が選ばされて注射を選び熱は下がりましたが、後遺症で耳が聞こえなくなっていました。

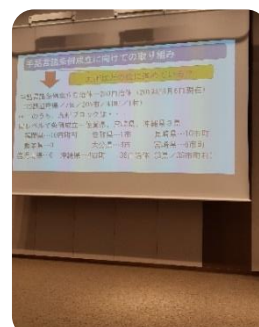
でも命助かって母親は感謝していますと話されておられました。

手話対策部活動状況報告の中で手話指導者講師養成では指導者になれるろうあ者が少なくて困っているとの事をお話しされました。

その後は事務局長の久松三二さんの手話・手話言語とアクセシビリティのお話の中で漢字の覚え方について健聴者は自然に耳から入ってきて覚えられるがろう者の方は覚えるのが大変でした。

昔はろう者は病氣あつかいされており、はいしつ者と呼ばれていた事、漢字の作られた方法が男性の立場で作られている事など色々とお話しされていました。

九州各県の言語条例に向けての発表があり、終わりとなりました。



鹿児島県 木場健一

第2分科会(文化)

テーマ 「デフリンピック、そしてデフスポーツの魅力向上のために
～そして2020東京オリパラから見えてきた課題」

講師 倉野直紀 氏

デフスポーツをもっと知りたいと思い参加しました。

九聴連の山本秀樹体育部長より全九州ろうあ者スポーツ大会、全国ろうあ者体育大会の流れについて報告があり、休憩をはさみ全日本ろうあ連盟スポーツ委員事務局長倉野直紀氏のお話がありました。

「デフリンピック」のマーク。良い、OK、すばらしいの意味があり真ん中は目の形を表しています。目から情報を得るという意味です。

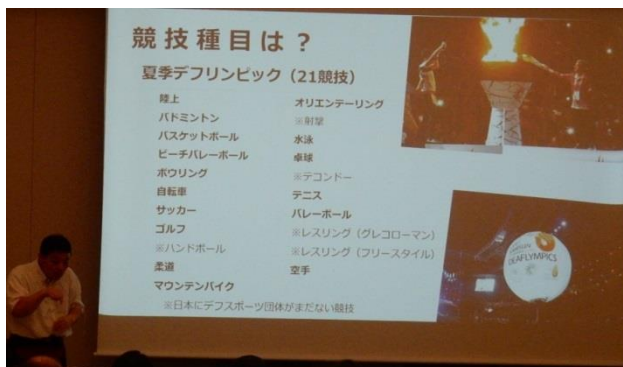
「オリンピック」の「ピック」という名称は国際オリンピック委員会が権利を持っているため使用できるのは「パラリンピック」「デフリンピック」「スペシャルオリンピックス」です。(スペシャルオリンピックスとは、知的発達障害のある人のオリンピック)

デフアスリートも以前はパラリンピックに参加していたが、パラリンピックは元々ハビリの考え方があり、方向性の違いもあってデフはデフの理事で。と脱退した。

デフリンピックの知名度はまだまだ低く 11.2%。デフアスリートはいろいろな不安、負荷、練習場の問題、大会参加費の問題などを抱えながら頑張っています。

昨年 2017トルコ・サムスンで開催されたデフリンピックでは、過去最高のメダルを獲得しています。

今年 11月、アジア太平洋ろう者競技大会(香港)。12月冬季デフリンピック(イタリア)みんなで応援しましょう。



歴史的なことから説明があり、理解することができ面白かったです。

2020年開催の東京オリパラ大会でのアクセシビリティの課題、聴覚障害者への情報保障がどうなのか。ということも頭に入れて東京オリパラみたいだと思います。

福岡県 糸島手話の会 溝口恵美

第3分科会(福祉)

テーマ 「障害者差別解消法の見直しと働く環境の現状と課題」

講師 松本正志 氏

第68回全九州ろうあ者大会、第47回全九州手話通訳者研修会が9月6日～8日久留米シティプラザで開催された。

会場のホールは2階3階に横一列に観覧席を携えた、オペラハウスを思わせる立派な仕様には感動した。

私は第3分科会(福祉)に参加した。それは同じ建物の会議室であった。

講師は、一般財団法人全日本ろうあ連盟 福祉・労働委員会前委員長 松本正志氏。

テーマは「障害者差別解消法の見直しと聴覚障害者の働く環境の現状と課題」。

氏は社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会 湖北みみの里で、所長兼サービス管理責任者だ。米原市は滋賀県内で2番目の手話言語条例を可決、施行している。氏の働きがあったと想像できる。

氏の話では、施行後の現実には設置手話通訳者が居ない足りない等々、厳しい状況もあるとのこと。



障害者への合理的配慮不提供の事例や政府の動きなど、氏の話は私にはにわかに呑み込めない難しいものだった。

しかしグループ討議になって ろう者の職場や学校、病院での差別事例の話を知ると、私も思い当たることばかりで、怒りを覚えながら討議に参加した。今大会で一番心に残った言葉。それは松永理事長が、「不満はいろいろあるだろうけれど、怒りを良い方向に向けて問題解決を導く」です。怒るだけでは問題解決にならない。解決に向けて行動する大切を知った大会でした。

熊本県 菊池わかぎ I.Y

高齢研修会

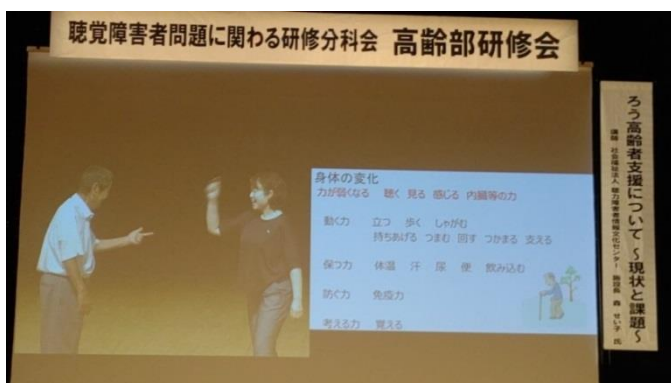
テーマ 「高齢ろうあ者への相談支援の現状と課題」

講師 森せい子 氏

人生の大先輩方にまじり、高齢者分科会で森せい子氏の講演を拝聴しました。

テーマは「ろう高齢者支援について～現状と課題～」。まず、講演は日本の高齢者福祉についてから始まりました。1990年代から急激な高齢化が進み、認知症を患う高齢者が増加、核家族化が進み自宅介護機能が低下、介護が社会問題になったとの説明がありました。

介護保険制度では、自分でできないところに対し上手にサービスを利用し補う事が大切、申請から契約まで内容や相談事を分かりやすく説明できる支援者(手話通訳者など)が必要、支援者が介護のレベルを察することも大切と話されました。実際に森氏が支援に加わりろう者の要介護度が変わった事があったそうです。「へえ～、そうなのか～」と頷く私と同様の方が前方の席にもおられ、大先輩方も関心があるのだと思いました。



加齢による心身の変化に対する予防の講話では、指相撲やじゃんけん、あっち向いてホイ等も予防効果があると言われ、実際に会場の隣同士で指相撲等を行い、大先輩方の笑顔や笑い声が場内に溢れました。

手話通訳・ホームヘルパー

・相談員さまざまな立場で、ろう高齢者と向き合う森氏の講話に、自分は引き込まれていきました。とくに、差別や孤独、問題を抱えても我慢し、劣悪な環境の中で生活してきたろう高齢者が、社会的支援を受け、安心して暮らせる居場所を手に入れるまでの講話は心に残りました。支援する際、ろう高齢者が何を欲しているかをくみ取り援助につなげる力が大切と思いました。そのためには福祉制度・社会的支援の知識も必要と感じました。

森氏が語った現場の声(内容)は私の想像をはるかに超えていました。手話通訳技術の習得ばかりに意識が傾いている自分にとって、今回の聴講はろう者がおかれてきた現状を学ぶ大切な時間になりました。

た。ろう高齢者には、手話に携わる者の支援は欠かせませんが、ろう者が欲しい情報を自ら取りに行くことのできる社会の構築や、社会全体で見守ることも大切と思いました。ろう高齢者が安心して暮らせる居場所作りの必要性も再確認できました。

長崎県 西海市手話サークル虹 宮本けい子

女性研修会

テーマ 「豊かな手話の表現者として」

講師 菊川れん 氏

スタッフ陣の予想 60 名をはるかに超える 197 名（ろう者と健聴者は半々）が集った女性部分科会、花柄のワンピース姿の講師が登場すると会場は一気に菊川れんワールドに包み込まれました。

冒頭、言語を獲得しているからといってすぐにその言語を教えることができるわけではない、そこには専門知識と技量が必要であると強調し講演は進んでいきました。

手話の表現力をアップするには 4 つのポイントが大事。①喜怒哀楽を豊かに、②遠慮せずに相手に伝える、③伝えたいという気持ちが大事、④場面に応じた語彙力を高める、これらの要点を押さえた上で講師からの課題に挑戦していきました。

前半 7 問は全員で考え、後半 2 問は多義語表現のワークショップ形式をとりグループ毎に表現を競い合いました。前半後半からそれぞれ一つを紹介します。

前半：「会わない」「会ってない」「会えない」「会いたくない」「会ったことがない」

解答例：「会う／不要」「会う／ない」「会う／不可能」「会う／断る」「会う／まだまだ」

後半：おかしい「頭が～」「文章が～」「体調が～」「機械が～」
「味が～」「服装が～」「行動が～」（解答例省略）

地域特有の手話やなるほどそーきたかーと唸るような魅力的な表現の数々に会場は大いに盛り上がりました。単語に拘らず意味をつかみ表現できる語彙力を磨くこと。ろう者も健聴者もお互い理解し合いながら、時には腹を割って気持ちを伝えることも大事。聞こえる人は聞こえない人の手話に近づけるように頑張ってください

と最後を結ばれました。

手話歌「チューリップ」「津軽海峡・冬景色」あり、生首が迫ってくるホテルの怪談話あり、心をわしづかみにされたあっという間の4時間でした。感情を素直に出せず、抑え込んでしまう自分の性格を急に変えることはできませんが、相手に伝えたいという気持ちと語彙力を高めることに磨きをかけ、最大限の喜怒哀楽と表情を伴う伝わる手話表現に努めようと思いました。



「表情も言語です。手だけ動かしてもろう者には伝わりません」と繰り返される講師の言葉を心に刻み、これからの活動に活かしていきたいと思います。

長崎県 吉永京子

「女性部の研修会に参加して」

菊川れんさんは、テレビで見るより、もっと美しくて、驚きました。手話通訳とは、直訳、意訳(意味をつかんで訳すること)、超訳(聾的表現)があるという、色々な例文を元に、表現方法を考えたり、参加者を飽きさせない、素晴らしい、内容でした。中でも、印象に残ったのは、あるお葬式で、実際にあった、通訳例で、草葉の陰から見守ってくれる。という文章をある通訳者が、直訳してしまって、ろう者は、全くわからないと言われて、自分も、もしその場にいて通訳をしてたら、同じような通訳をしているかもしれないと反省させられました。れんさんの言う手話の表現力とは、1:喜怒哀楽がはっきりして表情豊か。2:考えていることは、遠慮せずに伝える。3:相手に伝えたいという気持ちが強い。4:語彙力に優れ言葉選びのセンスがよい。この4つの言葉には、説得力がありました。

後半は、グループにわかれて、ワークショップがあり、とても楽しく勉強になりました。自分の知らなかった表現方法など、本当にこの分科会に参加して、良かったと思いました。れんさんの素晴らしい、手話表現に少しでも、近い表現が出来るように、まだまだ未熟ですが、これからも、勉強していきたいと思います。

また何か機会があれば、れんさんの講習会などに是非参加したいと思います。

佐賀県 江口麻子

青年研修会

テーマ 「かわづ寺子屋『ふくろう』20年の歴史
～ろうの子どもたちの成長と共に～」

講師 河津知子 氏

青年部分科会は「かわづ寺子屋『ふくろう』20年の歴史～ろうの子供の成長と共に～」

講師は大分県立聾学校 実習教師の 河津 知子 氏です。

かわづ寺子屋「ふくろう」では、毎月第3土曜日 10 時半～14 時半、ろう学校体育館等で午前中に絵本の読み聞かせやゲーム等を行い、午後からは自由遊び等が行われています。

それ以外に「ピクニック」「スポーツ交流」「正月遊び」など、季節に合わせて企画して楽しんでいます。

参加者は、ろう児だけでなく聞こえる兄弟も呼んで一緒に遊ばれています。活動の狙いとして「一人一人の個性を尊重し、楽しく遊べる環境を作る」があります。

その活動が評価され、「平成 29 年度障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受けています。

河津さんは原因不明で聞こえなくなりました。ろう学校が遠かったので、3歳からろうあ児の施設に入り、短大卒業までの 17 年間で過ごされました。子供の頃からろうの世界が当たり前と思って過ごしてきた河津さんにとっては、学園やろう学校や大学の中での様々な人との関わりや経験が、ふくろうの原点になっておられます。

分科会後半のワークショップでは、「考えてみよう、やってみよう！絵本の読み聞かせチャレンジ」ということで、お題は「それからのおにがしま」。物語は、ももたろうの鬼退治の後、すっかりおとなしくなった鬼たちと人間たちの交流がはじまり、子ども同士が遊び、村と島に橋がかけられ、鬼の娘と人間の若者の結婚式もあり、平和な世界を楽しく描いてある絵本でした。

河津さんは、「聞こえる人と聞こえない人が共生する社会が理想です。自分一人では難しいですが、みんなで協力したらいつかはできます。今回勉強して終わりではなく、学んだことを自分でありのままを伝えること。これを「種まき」という作業として、共生社会になるように、種をまくためにこの本を選びました。花が咲くかは分かりませ

んが、若い皆さんが共生社会に一つでも近づけるように種をまき、素晴らしい人生になるように応援しています。」との言葉で締めくくられました。



私の地元にも聞こえない子をもつご家族がいらっしゃいます。私自身小さいお子さんとの関わりはありませんが、河津さんの講演を聞いて、出来ることに限りはありますが、手話サークルとして情報提供や安心して過ごせるような環境作りを模索していきたいと思います。

熊本県 天草わかぎ 橋本健一

第 47 回全九州手話通訳者研修会

第 1 講座

テーマ 聞こえない人の暮らしから学ぶ

講演 ① 聞こえない人の暮らしから学ぶ～手話通訳活動の中で～
講師 小出新一 氏

講演 ② 聞こえない人の暮らしから学ぶ～ろう者と家族～
講師 金丸桂三 氏

9月7日(土)8日(日)の2日間、福岡県久留米市での第68回全九州ろうあ者大会・第47回全九州手話通訳者研修会が開かれました。

私は7日の第1講座の講演①小出新一氏の「聞こえない人の暮らしから学ぶ～手話通訳活動の中で～」講演②福岡県聴覚障害者協会金丸桂三氏の「聞こえない人の暮らしから学ぶ～聞こえない立場で～」に参加しました。

講演①の内容は

- (1) 医学モデルと社会モデル
- (2) 50年の到達点

- (3) えっ手話条例！！
 - (4) 運動が未来を拓く
 - (5) 温故知新
- 等

その中で、

●共生社会で聴覚障害者その個人を認めていく社会にならないければならない。

●私(小出氏)をイジメた人が高校に入って2人自殺した。ろうあ者から「私達ろうあ者は小さい時からイジメられて我慢してきたのに、何故あなた達は我慢が出来ないのか！！」と言われた話に改めて苦勞の多さを感じた。

●最近、気象庁の緊急会見に手話通訳が付くようになった。今迄何度



も「手話通訳を付けて欲しい！」と申請してきたが、理解も得られず「予算が付かない！」と言われた。

「私達ろうあ者は要らないということか！ろうあ者の命は要らないのか！」と言ったら手話通訳が付くようになった。といういきさつを聞いて頷くことばかりだった。



講演②の金丸桂三氏の講演では、私達ろうあ者を隠そうとする家族。ろう学校では口話教育の為手話を禁止されていたので、人気のないお墓にろうあ者が集まり手話を見られないように話した不遇の少年時代。初めて見た手話通訳の衝撃等の体験談が多く語られた。

佐賀県 唐津手話の会 渡邊麻里子

第2講座

講演 社会的障壁の闘い

講師 岩山 誠 氏(全日本ろうあ連盟 福祉・労働委員会)

「社会的障壁との闘い ～手話言語法・情報コミュニケーション法の制定に向けて～」



2歳の時に聴こえないことが分かってからの家族の苦悩、進学、就職等の際の「壁」に関する話から始まりました。大学進学を希望したが、受験許可を得ることが難関。鹿児島大学に入学して3年目に国公立大学で初めて公費負担による情報保障が実現。1週間に4コマ、年間100万円ほどの経費。

学びを深める場である大学。聴こえない学生を受け入れる大学の情報保障に関する負担軽減の必要性を説かれました。

大学卒業後の就職活動でも大きな壁。鹿児島県職員採用試験において、聴こえないことを理由に面接試験を拒否され、連続不合格。国家公務員試験においても聴こえないことが理由にされたが、要職にある方の判断で面接試験も受けられ、合格。採用されたことは嬉しかったが、手放しで喜べない気持ちはあったということでした。

国家公務員としての仕事が始まり、来訪者の多いハローワークに配属。聴覚障害のある職員が担当しているということで、同じ障害をもつ来訪者が対前年比で倍増したこともあったそうです。しかし、支援をして就労した方の中で離職者が多いことに疑問を感じるようになっていったということでした。

聴覚障害者の就労支援に本格的に取り組みたいと考えるようになって、退職して鹿児島大学の大学院で学び直し。信念を持って自分の求めることに向かって努力する岩山さんの姿に感銘を受けました。

実際に就労支援に関わってきている岩山さんの話から、国内での医療・教育・就労の場における合理的配慮の現状は、非常に遅れているということが分かりました。障害者をとりまく環境整備の問題解決を、当事者の責任として転嫁しない制度作りの必要性がよく理解できました。

「ろう者の手話コミュニケーション保障の現状」について、日本とEU諸国との間で大きな差があることが分かりました。

2010年のブリュッセル宣言における「手話言語の認知・学ぶ権利の保障・サービスの提供」を受けて、各国で聴覚障害者に寄り添った取り組みがなされている。欧州議会:手話言語フォーラム(2016年9月)では、32の手話言語に対して200人の手話通訳者(ろう通訳者、健聴通訳者、フィーター)を配置する手厚さ。

利用できる経費 … 日本(年間約29万円)、イギリス(約770万円)、フィンランド、ノルウェー(無制限)

利用期間 … 日本(利用初日から10年間)、フィンランド、ノルウェー(無制限)

イギリスにおけるAtW(Access to Work)の様子が詳しく語られました。

就労した障害者に応じて企業に手話通訳者、口話通訳者、筆記者・タイピスト、運転手等が派遣。(例)手話通訳者は、聴障者の職場に常駐。ランゲージ(言語)サポートにおいては、聴障者作成のメール文面のチェック・訂正等の支援。

岩山さんの講演を通して、日本においても、手話言語法、情報コミュニケーション法等によって合理的配慮が実現される社会が作られる必要性を痛感しました。

鹿児島県 指宿なの花サークル 出森俊郎

第1部 大会式典

第2部 アトラクション

9月8日(日)久留米市「久留米シティプラザ」にて、第68回全九州ろうあ者大会が、1200名を超える参加者を迎え開催されました。

第1部式典では、大会会長・来賓挨拶等と続き表彰式が行われ、5名の方が表彰を受けられました。おめでとうございます。

その後は、2018年度の総括報告・大会宣言・大会決議・大会式典スローガンと内容は豊富で、課題もあり勉強になりました。

第II部アトラクションでは、最初に「九州の明日を考えよう」をテーマでトークショーが特別ゲスト 久松三二氏 パネリスト指導者の立場から 松永朗氏 手話通訳として活動する立場から 満平一夫氏 手話サークルとして活動する立場から 池尻和吉氏 コーディネーターを 吉野幸代氏の進行で、それぞれの立場から、思いを語られました。



トークショー終了後は、久留米筑水高等学校の和太鼓部による勇壮な演奏でした。次は久留米伝統の「そろばん踊り」を久留米民謡舞踊保存会の皆さんの見事な舞いが披露されました。



最後に JR 九州櫻燕隊の迫力のある演舞で感動しました。隊の名前の由来は、九州新幹線「さくら」と「つばめ」で櫻燕(おうえん)隊だそうです。



フィナーレは福岡県から沖縄県へ引き継ぎがあり閉会しました。

福岡県 飯塚手話の会 高岡備子

編集後記

「はっけん」の作成にあたり、各県皆様方の原稿等ご協力をいただきありがとうございました。

今回 Word の使い方を初歩的なところから勉強し、説明書を見ながらの作業でしたが、なんとかできてほっとしています。

九州手話サークル連絡協議会

発行責任者 池尻和吉
 事務局長 森保夫
 発行担当者 高治克己（大分県）
 発行年月日 令和元年11月